

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会 報 第 118 号

2011年5月23日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：西原 一誠

1. 活動報告（事務局 記）

—5月01日（日）① エコアップは湿地帯の注水口付近の草刈取りと湿地帯スゲとチドメクサの間引きをしました。

② ビオトープ全般の草刈・水車水路の落ち葉挙げや土手の草刈をしました。18名の参加でたくさんの作業が出来、来訪者に対して安全に散策できるようになりました。

—5月21日（土） 第二回親子自然観察会「野鳥観察」を行いました。

ビオトープ・昭和山遊ロードを清瀬峡・昭和山から降り日吉神社・厚東川・ビオトープと周遊し野鳥を観察しました。宇部野鳥保護の会の渡辺さん・中山さんを招聘し色々の事を教わりながら、観察会員と当会の会員で観察勉強をしました。

参加者は当会会員13名・親子観察会親会員11名・子会員ジュニア・シニア16名の総勢40名で観察しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定はありません

◎行事

—5月22日（日）宇部環境コミュニティ総会 ヒストリア宇部にて

—6月05日（日）維持活動(田植え準備・游ロード・清瀬峡整備)

—6月18日（土）親子自然観察会（稲作体験田植え）

※7月に2件「フジとキラメキ子どもエコクラブ」の主に須賀河内川での学習

「福川こどもクラブ」の活動が例年の通り行われ、それぞれ案内講師3～4名を募集します。

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

ノートの記載はありませんので、今月はありません

4. 会員の声 「歴史研究に思う」（原田満洲夫 記）

以前より二俣瀬の歴史を研究するにあたって「歯朶ノ木丸城址」が古文書から見つけ出す事が出来て（夢ロマン探索隊）を結成し城跡・砦跡を探索しながら、さらに場所を特定し確実なものをと躍起になって古文書をひも解いてきた。 古文書（こもんじょ）

古文書に残る記述は以前からも言われていたが、当時の支配者（権力者）が都合のよい方向で有る程度戯曲しているということを今回の調査ではっきり分かってきた。したがってわずかに残っている反体制者（敗者）の歴史については90%消し去られているか、あってもある程度は悪者であったとし、さらっとしか記載されていない。

作家 井沢元彦氏の「逆説の日本史」に日本書紀から太平洋戦争時代まで日本の主だった歴史の逆説論をみると非常に面白いが、当防長二州の事でも二侯瀬での厚東氏時代・大内時代・毛利氏時代の古文書でも空白や不明な部分が非常に多い。逆にいえば、ここ二侯瀬地域が反体制側の歴史が多く有ったということにもなる。また世間体の悪い事柄は自ら省いた可能性も多々ありと言えよう。

さて「歯朶ノ木丸城址」もいよいよ佳境に入り“城”“砦”の名が入った、小字、字下を古文書から探し出したり、又近所の古老にも言い伝えなどを訪ねて歩きおおよその推定される4か所の場所を「城跡研究の大家」を招聘し、ともに現地調査をした。

今年中には調査記録誌が発刊できるのではないかと思う

5. 親子自然観察会「野鳥観察」(5月21日、子供16名、保護者11名、会員13名)

松原吉雄リーダー *応援参加：宇部野鳥保護の会会員 渡辺保尊氏及び中山氏夫妻 (管 哲郎 記)

朝の間は曇りで雨の心配をしましたが、幸い9時の集合時刻には青空も見え始め、隊員、会員、保護者合計40名の出席のもと初夏の季節、昼前には気温も28度を記録し、汗をかきながらの野鳥観察会になりました。

今回は「宇部野鳥保護の会」の方に講師をお願いしましたが、おかげでこれまでの最高数23種の野鳥を記録することができ、さすがに専門の方々であると改めて関心致しました。野鳥についての生態にも詳しく、鳴き声や特徴なども分かりやすく解説していただき、子供隊員だけでなく保護者や大人の会員にも大変勉強になりました。有意義な野鳥観察会になったと思います。

<観察できた野鳥>

(1) 姿を見せた野鳥

1. アオサギ 2. ダイサギ 3. カルガモ 4. カワラヒワ 5. コゲラ 6. スズメ 7. ツバメ 8. トビ 9. ハシボソガラス 10. ヒバリ 11. ヒヨドリ 12. ホオジロ 13. ミサゴ 14. メジロ 15. ヤマガラ 16. アオゲラ 17. ハクセキレイ 18. キセキレイ 19. コマドリ

(2) 声だけ聞いた野鳥

20. ウグイス 21. ホトトギス 22. キビタキ 23. コジュケイ

*「宇部野鳥保護の会」は今回のリーダーである松原さんがお世話くださいました。尚、野鳥の会の渡辺氏より観鳥会の案内がありましたのでお知らせしておきます。

6月12日(日) 8:30 宇部市吉見持世寺温泉駐車場・集合 一般参加できます。

6. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(36) シオカラトンボ(トンボ科シオカラトンボ属) *Orthetrum albistylum speciosum* (Uhler)

トンボの中でもっともなじみの深いポピュラーな種で、雌はムギワラトンボと呼ばれたりします。この種も水田の減少と共に昔に比べ数が少なくなっているようです。

植生豊かな池沼、水田、溝川などの止水域に生息しますが、市街地の神社や公園の池などにも広範囲に生息します。日本国内以外にも台湾から朝鮮半島、中国東北部を経てアフガニスタン、中央アジア、ヨーロッパに至る地域にまで別亜種が生息します。(石田昇三ほか, 1998)

4月～10月にかけて見られ、羽化は夜間に行われます。しかしビオトープでは下図のように8:30に羽化しているところを撮影しましたので、例外もあるようです。



シオカラトンボの羽化 (♀)



羽化終了間際 (♀) 開翅



シオカラトンボの成熟♂



シオカラトンボの成熟♀



連結交尾 (左:♂ 右:♀)



ペアで静止 (上:♂ 下:♀)

引用・参考文献

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊, 1988. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 102～103pp. 東海大学出版会, 東京.

7. 会よりの連絡事項（事務局より）

6月18日の「親子自然観察会」は今年復帰した稲作の体験学習のひとつで田植えです。最近の機械での作業でなく、昔の方法、人による腰を曲げての体験をしていただくことです。また雨が降ったら？などと問い合わせる人もいるが、“昔ながらの”とのうたい文句の通り雨降ってでも行います。それが体験というものではないでしょうか？

8. 編集後記

ゴールデンウィークが終わり、急に初夏の風を感じる今日この頃ですね。なかなか、活動に参加できていませんが、仕事で外勤するとき、二俣瀬ビオトープの周辺を通ります。「ビオトープも夏の香りがするんだらうな～」と想像しながら、看板を拝見しています。先日は、犬の散歩をする原田事務局長らしき人物をお見かけしました。二俣瀬在住の会員さんで、車の中から作業着の人に手を振られたら、私です。

（小田 政江 記）